

平成 21 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 20 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	32110080	
事務事業名	埋没林博物館一般管理事業	
予算書の事業名	2.埋没林一般管理事業	
事業期間	開始年度	昭和30年度
	終了年度	当年度
	当面継続	業務分類
		1. 施設管理
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	09060100
部名等	(教育機関)	
課名等	埋没林博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	橘 美世一	
電話番号	0765-22-1049	

政策体系上の位置付け	コード2	313012
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	社会教育施設の整備充実	

予算科目	コード3	001100504
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	4. 埋没林博物館費	

◆事業概要 (どのような事業か)		実績		計画					
埋没林博物館を適正に維持管理し運営していくため、入館料等の収納業務や施設維持管理のための契約、支払い、清掃保守点検等業務を行う。		単位	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) (1) 埋没林博物館施設 (2) 入館者	対象指標	① 施設・設備修繕必要件数	件	21	20	22	24	26
			②						
			③						
手段	<平成20年度の主な活動内容> 入館者への受付案内業務、入館料等の収納業務、施設維持管理のための契約・支払い業務、清掃保守点検等業務	活動指標	① 施設・設備修繕実施件数	件	16	16	18	20	23
	*平成21年度の変更点 施設の老朽化が進む中で修繕費が増加する傾向にあり、早めに修繕箇所を発見し、計画的な修繕を行うことにより、修繕費の節約に努める。		②						
			③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 埋没林博物館施設を適正にかつ効率よく維持管理し、入館者が満足し、入館者数が増加する	成果指標	① 修繕実施件数/修繕必要件数	%	0.76	0.80	0.82	0.83	0.88
			②						
			③						
その結果	<施策の目指すがた> 施設の機能性、利便性、安全性が高まり、生涯学習機能が向上するとともに入館者が増加することで経済効果を生み地域活性化につながる。また、景観の保全にもつながる。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年<頃>からどのようなきっかけで始まったか) 平成4年の埋没林博物館開設にともない実施		財源内訳	(1)国・県支出金 (千円)	0	0	0	0	0	
			(2)地方債 (千円)	0	0	0	0	0	
			(3)その他(使用料・手数料等) (千円)	18,561	21,362	23,185	23,185	23,185	
			(4)一般財源 (千円)	29,712	26,670	23,757	23,757	23,757	
			A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)	48,273	48,032	46,942	46,942	46,942	
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 施設をリニューアルして16年が経過し、施設建物や機械設備等が破損、老朽化し、その維持修繕等が大きな課題となる傾向にある。			①事務事業に携わる正規職員数 (人)	2	4	2	2	2	
			②事務事業の年間所要時間 (時間)	1,200	1,252	1,200	1,200	1,200	
			B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	4,812	5,265	5,046	5,046	5,046	
			事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)	53,085	53,297	51,988	51,988	51,988	
			(参考) 人件費単価 (円/時間)	4,010	4,205	4,205	4,205	4,205	
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 計画的な施設設備等の修繕		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 各施設の内容・規模等により、事業の実施状況が異なるため。						
		<input type="radio"/> 把握している							
		<input checked="" type="radio"/> 把握していない							

平成 21 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 20 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	施設の機能性、利便性、安全性が維持・向上すれば、学習機能が高まるとともに、入館者が増加し経済効果を生み地域活性化につながる。また、施設そのものが、魚津港周辺の景観の一部となっているので、景観の保全にもつながる。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入 博物館法 (昭和26年法律第285号) 魚津市立博物館条例 (平成3年魚津市条例第23号)	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	施設設備の老朽化により、修繕費が増加しているが、早めの修繕や、設備の更新により、維持経費や修繕費の削減につながる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
あり	経費の削減に努めてきたが、なおいっそう精査し、経費の削減に努める。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	経費の削減に努めてきたが、なおいっそう精査し、経費の削減に努める。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担あり 適正化の余地なし	利用者は現施設の運営・維持管理費等を考慮した入館料を負担している。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	現状の施設内用や近隣博物館との比較からも平均的なものである。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括					
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり				
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり				
③ 効率性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> コスト削減の余地あり				
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり				
2) 今後の事務事業の方向性					
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	<table border="1"> <tr> <td>年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度			
年度					
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善					

★ 改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)

実施予定時期	次年度 (平成22年度)	光熱水費、燃料費の更なる節約に努めるとともに、展示部門の照明などについても展示効果を下げることなく照明を削減できる場所がないかについても検討する。(晴天時昼間の窓際の照明等をこまめに入切するなど) 館内展示経路の見直し及びハイビジョンシアターの更新計画の策定を行う。	コストと成果の方向性
	中・長期的 (3～5年間)	省エネタイプの照明に順次切り替えていく。(個々の器具は割高だが、長期的には維持費の削減につながる)	削減 成果の方向性 向上

★ 課長総括評価 (一次評価)

経費の費用対効果を高めながら、効率のよい事業運営に努めてきた。	二次評価の要否
	不要

平成 21 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 20 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31301210	
事務事業名	歴史館ネットワーク事業	
予算書の事業名	3.歴史館ネットワーク事業	
事業期間	開始年度	平成15年度
	終了年度	
	当面継続	
	業務分類	5. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09060100
部名等	(教育機関)	
課名等	埋没林博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	石須 秀知	
電話番号	0765-22-1049	

政策体系上の位置付け	コード2	313012
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	社会教育施設の整備充実	

予算科目	コード3	001100504
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	4. 埋没林博物館費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画				
市観光資源の1つである「歴史館」に関する情報の集約、情報交流、発生メカニズムの解明、一般市民への知識の普及を目指す事業				単位	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	→	対象指標	① 関係団体会員数	人	69	71	75	75	75
	② 魚津市人口			人	46,459	46,036	46,000	46,000	46,000	
	③									
手段	<平成20年度の主な活動内容> 日本歴史館協議会総会・研究発表会への職員派遣および研究発表、関係者等との情報交換。 平成20年度は日本歴史館協議会が小樽開催となったため、魚津での歴史館交流会は休会とし、代替事業として「歴史館のお宝と歴史資料展」開催。 *平成21年度の変更点 歴史館交流会の開催および記録紙の発行 (平成19年度以前と同様)	→	活動指標	① 研究発表件数 (20年度は小樽市開催のため実績なし)	件	7	0	10	10	10
	② 記録誌配布件数 (20年度は小樽市開催で発行せず)			件	150	0	150	150	150	
	③ 「歴史館のお宝と歴史資料展」開催日数 (20年度のみ)			日	0	31	0	0	0	
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか)	→	成果指標	① 聴講者 (20年度は小樽市開催のため実績なし)	人	35	0	50	50	50
	② 「歴史館のお宝と歴史資料展」観覧者数 (20年度のみ)			人	0	4,259	0	0	0	
	③									
その結果	<施策の目指すがた> 歴史館の中心地としての魚津市の存在意義を高め、それを担う社会教育施設として博物館の機能を充実させる。			↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成4年の博物館リニューアルを契機に、歴史館も大きな事業の1つになった。 平成14年の市制50周年記念事業「歴史館フォーラム」を発端とし、翌年、全国の歴史館関係者が集う「歴史館交流会」を開催した。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
				(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0
				(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	0	0	0	0	0
				(4)一般財源	(千円)	133	113	169	169	169
				A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	133	113	169	169	169
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	2
歴史館に対する市民の関心が高まり、博物館に寄せられる質問等も年々増加・専門化している。 交流会の集まりの中から、「歴史館連絡協議会」が発足し、「日本歴史館協議会」へ発展。				②事務事業の年間所要時間	(時間)	500	500	500	500	500
				B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	2,005	2,103	2,103	2,103	2,103
				事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	2,138	2,216	2,272	2,272	2,272
				(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,010	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入)				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
歴史館に関する市民の関心が高まっているが、交流会のあり方については、歴史館協議会からは学術的な面でもさらに高度な研究発表の場にも発展させたいという意見と、市民からは一般市民にも親しめる内容を求める意見がある。				● 把握している	この事業は当市独自の事業であり、他市において類似事業及び調査等はされていない。					
				○ 把握していない						

平成 21 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 20 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 全国の盛気楼の情報が集まる博物館としての機能を充実させるのに不可欠の事業である。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 20年度は交流会の開催がなかったが、今後は魚津市での開催を継続する。参加者数は、会場定員の50に近づけることができると思われる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の事業費で実施しており、削減の余地はない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の人員で実施しており、削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担なし	説明 現金取り扱い時の事故の可能性や、有料化による参加者減少の恐れなどのリスクに対し、予算規模が小さいため有料化で期待される効果が小さい。
適正化の余地なし	
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 他市にない事業で比較困難であるが、博物館等での講演会などは無料のケースが多く現状で妥当と思われる。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input checked="" type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成22年度)	関係団体等との連携を深め、質、数値ともに向上を図る。 コストの方向性 維持
	中・長期的 (3~5年間)	学術面と親しみ・楽しみの面との融合を図りニーズを掘り起こす。 成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

観光資源のひとつである「盛気楼」を効果的に活用、企画展 (盛気楼のお宝と歴史資料展) を通じ、多くの方々にすばらしさを理解してもらうことができた。	二次評価の要否 不要
---	---------------

平成 21 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 20 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	13202305	
事務事業名	埋没林博物館観客誘致事業	
予算書の事業名	4. 観客誘致事業	
事業期間	開始年度	平成4年度
	終了年度	
	当面継続	
	業務分類	5. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	09060100
部名等	(教育機関)	
課名等	埋没林博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	橋 美世一	
電話番号	0765-22-1049	

政策体系上の位置付け	コード2	132023
政策の柱	第1章 明日を築く活力あるまち	
政策名	第3節 まちの活力を育む工業・商業・観光の振興	
施策名	2. 観光の振興	
区分	観光ネットワーク	
基本事業名	観光案内・PR活動機能の充実、強化	

予算科目	コード3	001100504
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	4. 埋没林博物館費	

◆事業概要 (どのような事業か)	単位	実績		計画				
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
市の観光資源の「壺気楼」「埋没林」を学べる博物館として、また、それらを全国へ発信すべき拠点として、情報の収集・資料の充実を図りながら、県内外に広くPRし、入館者の増加を図る事業 主な事業の内容は次のとおり ① イベントニュース・パンフレット・ポスター等の作成、配布 (観光業者、関係施設) ② 新聞・雑誌・テレビ等の広告掲載 (この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) (1) 県内外の観光客	対 象 指 標	① 観光客 (県内外からの来魚者)	人	1,238,000	1,250,000	1,265,000	1,280,000	1,295,000
<平成20年度の主な活動内容> 新聞・雑誌・テレビCM等で事業をPR。イベントニュース・チラシ・ポスターを関係施設へ配布。インターネット (ホームページ等) 及び電子メールによる情報発信。商工観光課と合同で、県外の観光業者を訪問し、集客を依頼。 *平成21年度の変更点 県外の観光業者にパンフレットを郵送し、集客を依頼する。	活 動 指 標	① 新聞・雑誌・テレビCMなどの広告件数	件	21	17	17	17	17
		② イベントチラシの配布枚数	枚	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 博物館事業の情報をPRすることによって、関心をもたせ、入館してもらう。	成 果 指 標	① 広告等で知った入館者/アンケート回収人数	%	41.07	42.10	45.00	48.00	50.00
<施策の目指すがた> 入館者の増加を図り、市の交流人口を増やすことにより、活力あるまちにする。		↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成4年に博物館をリニューアルしたことをきっかけに、宣伝活動を強化した。リニューアル前は年間3万人程度の入館者であった。	財 源 内 訳	①国・県支出金 (千円)		0	0	0	0	0
		②地方債 (千円)		0	0	0	0	0
		③その他(使用料・手数料等) (千円)		0	0	0	0	0
		④一般財源 (千円)		2,363	2,016	1,859	1,750	1,700
		A. 予算(決算)額(①~④)の合計 (千円)		2,363	2,016	1,859	1,750	1,700
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) リニューアル当初は14万人もの入館者があったが、5年後の平成9年には10万人となり、景気の低迷によりさらに減少し続け、近年は6万人台で推移していた。 平成19年度は、5万人を割り込んだが、平成20年度は、約6,000人の増加により、55,000人となった。 今までは、PRの対象は観光客中心であったが、今後は、市や県を巻き込んだ総合的なPR活動を推進しながら、本来の博物館施設として役割を再認識し、一般市民や子供たちの利用を促進するさらなるPR活動も必要となっている。		①事務事業に携わる正規職員数 (人)		2	2	2	2	2
		②事務事業の年間所要時間 (時間)		600	800	800	750	700
		B. 人件費 (②×人件費単価/千円)		2,406	3,364	3,364	3,154	2,944
		事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)		4,769	5,380	5,223	4,904	4,644
		(参考) 人件費単価 (円/時間)		4,010	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 魚津市の観光資源「壺気楼」「埋没林」等を広くPRし、入館者の増加を図って欲しい。	◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 博物館等では同種事務事業は行っていない。						
		<input type="radio"/> 把握している	→					
		<input checked="" type="radio"/> 把握していない						

平成 21 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 20 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 県内外の観光客や市民に、本博物館の2大テーマである「埋没林」と「蜃気楼」を広くPRし関心を持ってもらうことは、博物館本来の目的である科学的知識の普及はもとより、入館者の増加、さらには市の観光振興に寄与するものと思われる。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。観光客の集客のための効果的なPR活動を推進しながら、一般市民や子供たちの利用を促進するPR活動に努める。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 関連施設との連携をさらに進め、効果的なPR活動を推進する。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 商工観光課、水族館でも観客誘致事業を行っている。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
あり	説明 商工観光課、水族館でも観客誘致事業を行っており、協力し観光客を訪問・PR活動を行ったり、ポスターやパンフ、広報誌の配布などを効率化することができる。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最少の人数で効率的に活動している。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者なし・負担なし	説明 館に併設される売店・レストラン等がないので、宣伝活動により直接利益を受ける業者等はない。
適正化の余地なし	
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 展示内容や近隣博物館との入場料との比較から平均的なものである。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input checked="" type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成22年度)	コストの方向性 削減
	中・長期的 (3~5年間)	成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)		二次評価の要否
魚津の観光資源「蜃気楼」、「埋没林」を学べる博物館として、県内外の観光客へのPR、新聞雑誌への広告掲載、ホームページの活用、市民・小中学生イベントニュースの配布等積極的に実施した。昨年度より入館者が約6,000人増加したが、予算の減少で、観光PRの再構築が必要である。		不要

平成 21 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 20 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31301306	
事務事業名	埋没林博物館教室事業	
予算書の事業名	5.博物館教室事業	
事業期間	開始年度	平成5年度
	終了年度	
	当面継続	
	業務分類	5. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	09060100
部名等	(教育機関)	
課名等	埋没林博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	石須 秀知	
電話番号	0765-22-1049	

政策体系上の位置付け	コード2	313012
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	社会教育施設の整備充実	

予算科目	コード3	001100504
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	4. 埋没林博物館費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画				
主として魚津市民に対し、郷土の自然とのふれあいを通して、その重要性や意義への理解を深めることを目的として講座を主催する。				単位	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	対象指標	① 魚津市人口	人	46,459	46,036	46,000	46,000	46,000	
	②									
	③									
手段	<平成20年度の主な活動内容> 講座「ふれあい学習会」として、「食べられる草ど〜れだ」「四つ葉のクローバーみ〜つけた」「自由研究相談室」「魚津周辺のスギと埋没林のルーツ」「もじで楽しく葉書づくり」「つるつるつくる」「冬の蜃気楼ウォッチング」を開催 *平成21年度の変更点 「冬の蜃気楼ウォッチング」の回数を増やす	活動指標	① ふれあい学習会開催回数	回	7	7	9	9	9	
	②									
	③									
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか)	成果指標	① 延べ参加者数	人	101	73	180	180	180	
	魚津市の自然に興味を持ち接する機会を持ってもらう。		②							
	③									
その結果	<施策の目指すがた> 市民に魚津市の自然や、博物館活動への理解を深めてもらい、生涯学習・社会教育施設としての役割を果たす。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入								
◆この事務事業開始のきっかけ (何年<頃>からどのようなきっかけで始まったか) 平成4~5年ごろ、学校週5日制の導入に伴い、博物館教室開催へのニーズが高まった。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				(千円)	0	0	0	0	0	
				(千円)	0	0	0	0	0	
				(千円)	137	147	121	121	121	
				(千円)	137	147	121	121	121	
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	
学校の週5日制完全実施、総合学習等自発的学習時間の増、高齢者等の生涯学習ニーズの多様化				②事務事業の年間所要時間	(時間)	500	500	500	500	
				B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	2,005	2,103	2,103	2,103	
				事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	2,142	2,250	2,224	2,224	
				(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,010	4,205	4,205	4,205	
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入)				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
参加者の意見(口頭)として、 ・魚津の自然を見られてよかった ・もう少し種類や回数が多くてもよい ・無料なのはありがたい など				<input checked="" type="radio"/> 把握している <input type="radio"/> 把握していない	他市の博物館等でも、各種の博物館教室を開催している					

平成 21 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 20 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input type="radio"/> 直結度大 <input checked="" type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 郷土の自然や博物館を理解する人を増やすことは、生涯学習・社会教育の充実につながる。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 21年度は回数を2回追加し、市民の学習機会を増やすとともに、延べ参加者数の増加を見込む。内容の一部入れ替えにより新たな参加者を発掘する。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 21年度はマイクロバスの使用回数を削減したが、それ以外は最低限の事業費で実施しており、削減の余地はない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の人員で実施しており、削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担なし	説明 現金取り扱い時の事故の可能性や、有料化による参加者減少の恐れなどのリスクに対し、予算規模が小さいため有料化で期待される効果が小さい。
適正化の余地なし	
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 他の博物館等で行われている類似事業では、参加費は無料か、徴収する場合もごく低額の場合が多く、平均的である。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	年度 _____
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成22年度)	コストの方向性 維持
	中・長期的 (3~5年間)	成果の方向性 向上
内容、回数、時期等の見直しでより参加しやすいものを目指す。		
飛躍的向上は期待しがたいが、ニーズに応じた地道な改善を積み重ねることで少しずつ成果の向上を図る。		

★課長総括評価 (一次評価)

自然科学等を楽しく学べる博物館教室の実施は、今後とも必要と考えるが、教室等の内容についても検討を要す。	二次評価の要否
	不要

平成 21 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 20 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31301209	
事務事業名	埋没林博物館調査研究事業	
予算書の事業名	6. 調査研究・展示事業	
事業期間	開始年度	平成4年度
	終了年度	当年度
	当面継続	業務分類
		5. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	09060100
部名等	(教育機関)	
課名等	埋没林博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	石須 秀知	
電話番号	0765-22-1049	

政策体系上の位置付け	コード2	313012
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	社会教育施設の整備充実	

予算科目	コード3	001100504
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	4. 埋没林博物館費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画				
市内の自然 (植物、地質、気象等) を調査研究、記録し、展示や教育普及活動に活用できる形にして公開し、資料や情報を後世へ伝える。				単位	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	対象指標	① 魚津市の面積	km ²	200	200	200	200	200	
	魚津市の自然		②							
			③							
手段	<平成20年度の主な活動内容> 市内特に片貝川流域、角川流域の自然史資料に関する調査・資料収集・研究報告書、印刷物執筆、展示、講演等による調査研究成果の周知	活動指標	① 調査回数	回	16	19	25	25	25	
	*平成21年度の変更点 変更なし		② 新規収集資料数(写真等2次資料を含む)	点	433	396	500	500	500	
			③							
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 調査研究、資料収集により現況を明らかにし、展示、教育普及等の事業に活用できるようにする。	成果指標	① 報告書・出版物・外部執筆・講演等件数	件	20	26	20	20	20	
			② 収集資料総数(写真等2次資料を含む)	点	9,146	9,542	10,000	10,500	11,000	
			③							
その結果	<施策の目指すがた> 博物館活動を通じて郷土の自然の姿を伝えることにより、社会教育施設としての機能を充実させる。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入								
◆この事務事業開始のきっかけ (何年<頃>からどのようなきっかけで始まったか) 平成4年、専任学芸員の配置による				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	
				(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	
				(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	
				(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	0	0	0	0	
				(4)一般財源	(千円)	572	571	746	726	726
				A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	572	571	746	726	726
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 洞杉の新聞等での紹介、片貝県定公園の指定等、魚津の自然の注目度の上昇				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	
				②事務事業の年間所要時間	(時間)	500	500	500	500	
				B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	2,005	2,103	2,103	2,103	
				事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	2,577	2,674	2,849	2,829	
				(参考) 人件費単価	(円@時間)	4,010	4,205	4,205	4,205	
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 埋没林博物館の事業として片貝川県定公園、(仮称) 僧ヶ岳県立自然公園の範囲に自生する希少植物の保護・研究を取り入れられたい。 埋没林博物館に地質関係の標本を備えられたい。 (以上2件、平成20年度共産党より要望)				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
				<input checked="" type="radio"/> 把握している	他市においても、博物館の根幹的業務として調査研究が行なわれている					
				<input type="radio"/> 把握していない						

平成 21 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 20 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 博物館の根幹を成す事業として、施策の目指す姿を実現するのに欠かせない事業である。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input checked="" type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
なし	説明 成果向上の余地なし。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の事業費で実施しており、削減の余地はない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の人員で実施しており、削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者なし・負担なし 適正化の余地なし	説明 調査研究自体に特定の受益者は想定されない。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 他市の博物館等でも状況はほぼ同じである。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input checked="" type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
2) 今後の事務事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成22年度)	維持 コストの方向性
	中・長期的 (3～5年間)	維持 成果の方向性

★課長総括評価 (一次評価)

自然史関連事業等を調査・研究することは、博物館としての努めであり、片貝川流域の自然史資料に関する調査・資料収集を実施、洞杉の調査も実施した。	二次評価の要否 不要
--	---------------

平成 21 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 20 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31301305	
事務事業名	埋没林博物館展示事業	
予算書の事業名	6.調査研究・展示事業	
事業期間	開始年度	平成4年度
	終了年度	
	当面継続	
業務分類	5. ソフト事業	
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	09060100
部名等	(教育機関)	
課名等	埋没林博物館	
係名等	管理係	
記入者氏名	石須 秀知	
電話番号	0765-22-1049	

政策体系上の位置付け	コード2	313012
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	社会教育施設の整備充実	

予算科目	コード3	001100504
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	4. 埋没林博物館費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画				
調査研究の成果をもとに展示を発案・作成し、知識や情報を親しみやすい形で市民および博物館利用者に提供する。				単位	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	→	対象指標	① 魚津市人口	人	46,459	46,036	46,000	46,000	46,000
	企画展示内容および展示物、魚津市民および入館者			② 入館者数	人	49,484	55,564	63,000	64,000	65,000
				③						
手段	<平成20年度の主な活動内容>	→	活動指標	① 企画展示開催件数	件	4	4	4	4	4
	「あな・穴展」、「魚津ナチュラルギャラリー」、「蜃気楼のお宝と歴史資料点」、「蜃気楼写真展」			②						
	*平成21年度の変更点			③						
	「KAZE(風)展」、「魚津ナチュラルギャラリー」、「蜃気楼写真展」などを計画									
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか)	→	成果指標	① 企画展示期間入館者数	人	45,508	52,485	59,000	60,000	61,000
	企画・製作し、利用者の観覧に供する。			②						
				③						
その結果	<施策の目指すすがた>			↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
	市民等に魚津市の自然や、博物館活動の意義を伝え、社会教育施設としての機能充実に資する。									
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか)				財源内訳	(1)国・県支出金 (千円)	0	0	0	0	0
平成4年のリニューアルにより、埋没林や蜃気楼だけでなく、地域の自然全般を対象として展示の幅を広げる必要が生じた。					(2)地方債 (千円)	0	0	0	0	0
					(3)その他(使用料・手数料等) (千円)	0	0	0	0	0
					(4)一般財源 (千円)	164	164	162	162	162
					A. 予算(決算)額(①~④)の合計 (千円)	164	164	162	162	162
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				◆県内他市の実施状況	①事務事業に携わる正規職員数 (人)	2	2	2	2	2
埋没林や蜃気楼だけでなく、洞彩等魚津の自然が学術的にも価値のあるものだということがわかってきた。					②事務事業の年間所要時間 (時間)	500	500	500	500	500
					B. 人件費 (②×人件費単価/千円) (千円)	2,005	2,103	2,103	2,103	2,103
					事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)	2,169	2,267	2,265	2,265	2,265
					(参考) 人件費単価 (円/時間)	4,010	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入)				● 把握している ○ 把握していない	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
「あな・穴展」手づくりの雰囲気よかった(平成20年8月14日、自由記入アンケートの入館者の感想として)					他市の博物館等においても、企画展示を年間1~4件程度開催している。					

平成 21 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 20 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 博物館の根幹を成す事業として、施策の目指す姿を実現するのに欠かせない事業である。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 展示手法等を工夫することで内容等の充実を図る余地がある。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
なし	説明 連携することで、今より効果が高まる可能性がある他の事務事業はない。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の事業費で実施しており、削減の余地はない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の人員で実施しており、削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担あり 適正化の余地なし	説明 企画展示期間の入館者が特定受益者となりうるが、入館料を徴収しており、負担は適正と思われる。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 大規模な特別展等で特別料金を徴収するケースは見られるが、独自の企画展示では通常の入館料としているところが大半であり、負担水準としては平均的である。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input checked="" type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成22年度)	コストの方向性 維持
	中・長期的 (3～5年間)	成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)	
企画展についても、職員の創意工夫による展示を実施し、好評を得た。21年度は、蟹気楼再現装置の試作を行い、身近に蟹気楼を体験してもらおう。	二次評価の要否 不要